



# 日本睡眠学会第47回定期学術集会

The 47<sup>th</sup> Annual Meeting of Japanese Society of Sleep Research

ランチョンセミナー 13



## 睡眠時無呼吸症候群 (SAS) における 地域的専門病院と診療所の コミュニケーション

日時

2022年 **7**月 **1**日 12:00-12:50

会場

ウェスティン都ホテル京都 F会場 葵殿

〒605-0052 京都市東山区粟田口華頂町1(三条けあげ) TEL:075-771-7111

WEB参加者向けにライブ配信を行います

座長

**安藤 眞一** 先生

福岡県済生会二日市病院 睡眠センター

演者

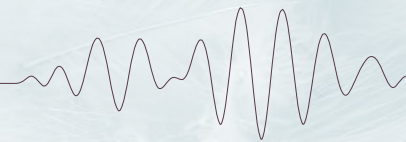
**高井 雄二郎** 先生

東邦大学医療センター大森病院 睡眠時呼吸障害センター



整理券配布はありません。  
直接会場にお越しいただき、  
先着順でのご入場となります。

ランチョンセミナー 13



## 睡眠時無呼吸症候群 (SAS) における 地域的専門病院と診療所のコミュニケーション

高井 雄二郎 先生 東邦大学医療センター大森病院 睡眠時呼吸障害センター 准教授

### 【本邦のSAS診療の実情と検査の問題点】

SASは近年common diseaseとして認知されたこともあり、急速に患者数は増加しているが、未だ多くの潜在患者が存在することが推測される。それに対して、現状では専門施設だけではこのニーズに応えきれておらず、近年では非専門診療所がSAS診療の主体となってきている。しかしながら、非専門診療所でのSAS診療は、OCSTの検査精度管理、SAS教育、CPAP療法導入・管理上の様々な注意点があり、地域における「SDB診療の質」をどうやって担保していくかは、我が国全体の問題として認識する必要がある。これを解決するための大きな解決策の一つとして、地域単位での専門施設と診療所が適切に役割を分担して診療連携していくことが求められている。

### 【地域的専門病院・診療所の役割と地域連携の工夫】

専門病院に求められることは、多くの地域の診療所と連携し、SAS患者の個々の病態に応じた詳細な初期教育、PSGやMSLTを経て適切な治療方針を決定し、CPAP療法導入時には圧力調整および初期対応によるアドヒアランス向上の工夫を行い、速やかに地域の診療所に紹介する必要がある。更には、継続的な非専門診療所へのSAS診療教育が求められる。

非専門診療所の主な役割としては、専門病院との連携を確保した上でSAS患者を拾い上げ、一般的なSAS教育、専門医療の必要性の適切な判断、安定期のCPAP療法管理、SAS診療の継続的な情報収集を図っていくことが求められる。

この両者の地域連携については、地域全体のPSGやMSLTのリソースの把握、地域の診療所のニーズを十分把握した上で、より多くの地域の施設と有機的な連携を図ることが望ましい。当院では自施設のみならず、近隣のPSG可能施設と連携してPSG待機日数や曜日の調整を行うことで患者サービスを向上する工夫、院内連携による診療体制の構築、多くのCPAP療法可能施設との連携を図ることで、スムーズな地域連携を行っている。

